

### III. 育児について

#### 1. 育児に対する意識

##### (1) 子育てに対する楽しさ・つらさ (問 18)

では、育児についてお聞きします。

問 18 [カード 15] あなたは、子育てに楽しさを感じるときが多いですか、それとも辛さを感じるときが多いですか。この中から1つだけ選んでください。

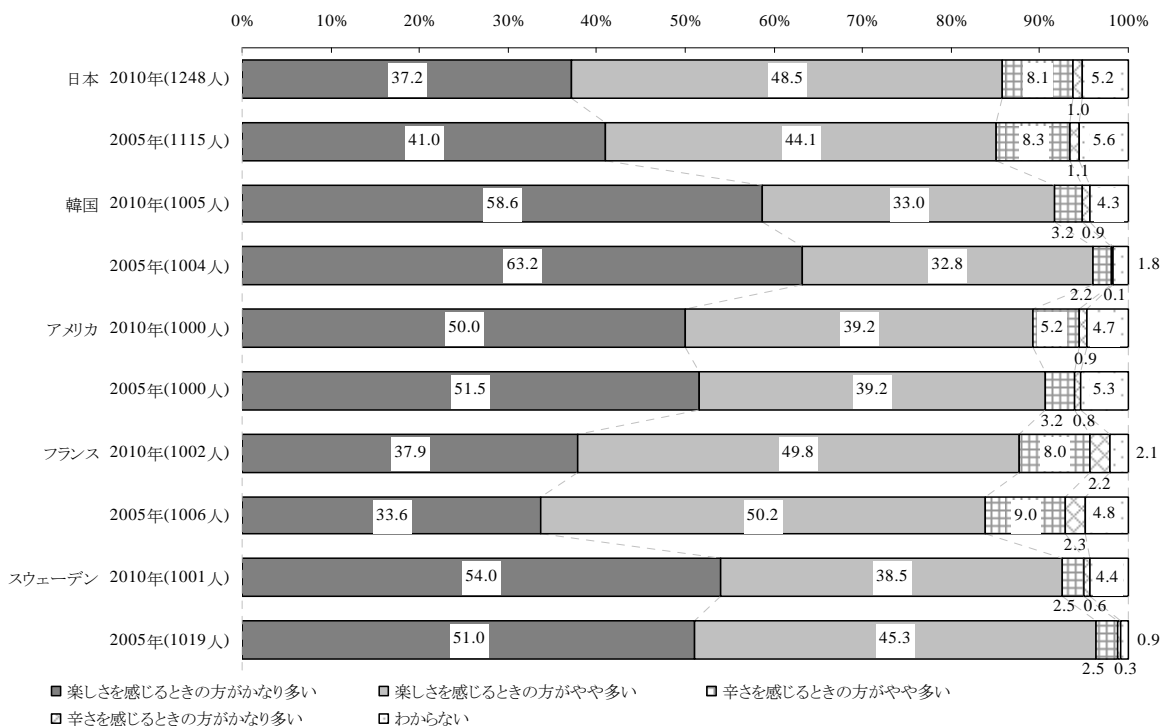
(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 楽しさを感じる時の方がかなり多い | 4 辛さを感じる時の方がかなり多い |
| 2 楽しさを感じる時の方がやや多い  | 5 わからない           |
| 3 辛さを感じる時の方がやや多い   |                   |

子育てに楽しさを感じるときが多いか、辛さを感じるときが多いかを聞いたところ、日本では、「楽しさを感じる時の方がかなり多い」は37.2%と前回調査の41.0%から3.8ポイント減少しているが、「楽しさを感じる時の方がかなり多い」と「楽しさを感じる時の方がやや多い」の合計は前回から0.6ポイント上昇し、85.7%となっている。

各国比較では、「楽しさを感じる時の方がかなり多い」と「楽しさを感じる時の方がやや多い」の合計は韓国(91.6%)、アメリカ(89.2%)、フランス(87.7%)、スウェーデン(92.5%)ともに日本よりも高い。(図 III-1)

図 III-1



(2) 子育てをしてもよかったと思うこと (問 19)

問 19 [カード 16] あなたが、子育てをされていて、よかったと思うことは何ですか。あてはまるものをいくつかも選んでください。(M.A.)

(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 家庭が明るくなる         | 6 子育てを通じて自分も精神的に成長する |
| 2 身近な人が子どもと接して喜ぶ   | 7 夫婦の愛情がより深まる        |
| 3 生活にはりあいができる      | 8 その他(具体的に)          |
| 4 子育てを通じて友人が増える    | 9 良いと思うことは特にない       |
| 5 子育てを通じて自分の視野が広がる | 10 わからない             |

子育てをされていて、よかったと思うことについて聞いたところ、日本では、前回調査と同様、「家庭が明るくなる」が 73.2%で最も高く、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」が 60.3%。上位 5 項目の順位は前回と変わらない。

各国比較では、韓国、アメリカは日本と同様に「家庭が明るくなる」が前回同様最も高く(それぞれ、78.9%、75.8%)、フランスでは「生活にはりあいができる」が 62.4%、スウェーデンは「子育てを通じて自分も精神的に成長する」が 69.1%で最も高い。

また、「家庭が明るくなる」、「生活にはりあいができる」、「子育てを通じて自分も精神的に成長する」は全ての国において上位 3 位以内に入っている。(表 III-1)

表 III-1

(%)

	家庭が明るくなる	身近な人が喜ぶ	生活にはりあいができる	友人が増える	子育てを通じて視野が広がる	自分も精神的に成長する	夫婦の愛情がより深まる	その他	は良いと思うこと	わからない
日本	1		3	5	4	2				
2010年(1248人)	73.2	24.2	54.1	34.1	46.6	60.3	29.6	0.7	0.3	3.8
2005年(1115人)	76.5	24.9	58.1	38.3	49.3	60.9	31.3	0.4	1.0	3.1
韓国	1	5	2			3	4			
2010年(1005人)	78.9	29.8	63.7	14.3	26.7	40.5	31.9	0.5	1.2	2.8
2005年(1004人)	83.3	39.5	62.2	20.2	30.4	40.0	45.8	-	0.9	-
アメリカ	1		2		5	3	4			
2010年(1000人)	75.8	30.4	60.4	21.6	50.7	58.6	50.8	3.1	1.3	2.5
2005年(1000人)	75.9	16.4	48.5	15.8	42.5	50.5	46.4	0.9	1.0	3.6
フランス	2		1		4	3	5			
2010年(1002人)	56.6	15.2	62.4	6.1	37.6	52.9	29.4	0.6	1.2	0.8
2005年(1006人)	63.8	22.3	62.0	5.6	33.7	45.1	32.1	0.4	2.8	1.3
スウェーデン	3	5	2		4	1				
2010年(1001人)	58.7	47.8	63.1	36.6	50.7	69.1	44.5	2.8	1.6	7.0
2005年(1019人)	71.1	60.5	74.7	46.7	65.5	85.4	55.7	0.6	0.1	0.7

注：上段の網掛け数字は各国の上位 5 項目の順番

(3) 子育てをして負担に思うこと (問 20)

問 20 [カード 17] あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。この中からいくつでも選んでください。(M.A.)

(お子さんがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。)

- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 1 子育てによる身体の疲れが大きい | 7 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない |
| 2 子育てによる精神的疲れが大きい | 8 子どもが病気の時                |
| 3 子育てに出費がかさむ      | 9 その他(具体的に)               |
| 4 自分の自由な時間が持てない   | 10 負担に思うことは特にない           |
| 5 夫婦で楽しむ時間がない     | 11 わからない                  |
| 6 仕事が十分にできない      |                           |

子育てをしていて、自分にとって負担に思うことを聞いたところ、日本では、前回調査と同様、「子育てに出費がかさむ」が最も高く 47.2%で、前回の 46.5%より 0.7 ポイント上昇している。次に、「自分の自由な時間が持てない」、「子どもが病気の時」、「子育てによる精神的疲れが大きい」と続き、上位 5 項目の順位は前回と変わらない。

各国比較をみると、「子育てに出費がかさむ」は日本、韓国、アメリカ、スウェーデンで前回同様、最も割合が多く(順に、47.2%、73.6%、72.8%、46.2%)、特に韓国とアメリカでは 7 割を超えている。一方、フランスでは「子どもが病気の時」が 39.9%で最も高い。(表 III-2)

表 III-2

(%)

	大身 き育 ての 疲 れ が よ い に よ る	大精 子育 ての 疲 れ が よ い に よ る	が子 育 て に 出 費 が か さ む	自 分 の 自 由 な 時 間 が 持 て な い	時 夫 婦 が 楽 し む 時 間 が な い	で仕 事 が 十 分 に し な か ら な い	でな な な こ と が 理 解 し て く れ な い	子 育 て に よ る 子 ど も が 病 気 の 時	そ の 他	と負 担 に 思 う こ と は 特 に な い	わ か ら な い
日本	5	4	1	2				3			
2010年(1248人)	26.2	28.9	47.2	41.2	13.3	17.6	3.5	35.7	-	6.4	3.6
2005年(1115人)	5	4	1	2				3			
2005年(1115人)	23.8	29.2	46.5	42.4	12.3	15.2	4.1	36.3	0.1	11.0	3.6
韓国	3	4	1	2				5			
2010年(1005人)	34.0	29.0	73.6	42.4	26.3	18.9	4.9	28.9	0.1	4.1	2.2
2005年(1004人)	5	4	1	2				3			
2005年(1004人)	31.6	32.3	75.6	42.9	25.5	24.4	7.6	39.3	-	2.6	1.2
アメリカ	2		1	4	5			3			
2010年(1000人)	46.0	28.9	72.8	38.5	31.0	26.4	19.0	45.1	1.7	3.9	5.2
2005年(1000人)	2		1	4	5			3			
2005年(1000人)	38.5	21.9	59.2	30.2	25.2	16.9	13.7	33.1	0.8	6.5	6.6
フランス	4	3	2	5				1			
2010年(1002人)	32.3	32.8	38.6	19.4	15.3	8.8	6.0	39.9	0.7	7.2	1.1
2005年(1006人)	4	3	1	5				2			
2005年(1006人)	26.9	29.7	40.8	21.2	20.7	7.9	5.3	37.0	0.8	16.3	1.5
スウェーデン	2	3	1			5		4			
2010年(1001人)	36.1	34.1	46.2	14.3	14.2	17.1	14.6	32.7	3.8	14.3	8.0
2005年(1019人)	2	4	1			5		3			
2005年(1019人)	59.1	33.6	59.8	18.4	20.7	29.2	20.0	55.3	1.3	2.5	1.7

注：上段の網掛け数字は各国の上位 5 項目の順番

## 2. 育児を担う者

### (1) 就学前の子どもの育児における夫・妻の役割（問 21）

問 21 [カード 18] 小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割について、あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 もっぱら妻が行う      | 4 主に夫が行うが、妻も手伝う |
| 2 主に妻が行うが、夫も手伝う | 5 もっぱら夫が行う      |
| 3 妻も夫も同じように行う   | 6 わからない         |

小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割について聞いたところ、日本では、「もっぱら妻が行う」は男性で 6.3%、女性で 7.5%であるが、「主に妻が行うが、夫も手伝う」は男女ともに、前回同様最も高い（男性：56.0%、女性：63.3%）。

各国比較でみると、アメリカ、スウェーデンの男女及びフランスの男性では、「妻も夫も同じように行う」が最も高い。特にスウェーデンでは、男性で 91.0%、女性で 89.4%が「妻も夫も同じように行う」と回答している。また、フランスの女性では「主に妻が行うが、夫も手伝う」が 40.6%で最も高く、前回調査から 10.4 ポイント上昇している。（表 III-3）

表 III-3

(%)

		もっぱら妻が行う	主に妻が行うが、夫も手伝	妻も夫も同じように行う	主に夫が行うが、妻も手伝	もっぱら夫が行う	わからない		
〔男性〕	日本	2010年 (539人)	6.3	56.0	34.1	0.7	-	2.8	
		2005年 (501人)	7.2	55.1	34.5	0.6	0.2	2.4	
	韓国	2010年 (514人)	5.8	56.6	34.6	1.8	-	1.2	
		2005年 (511人)	4.2	69.0	25.8	1.0	-	-	
	アメリカ	2010年 (491人)	2.9	35.2	58.5	1.0	-	2.4	
		2005年 (472人)	3.4	36.0	55.5	1.9	0.2	3.0	
	フランス	2010年 (460人)	9.3	29.1	58.5	1.5	0.2	1.3	
		2005年 (503人)	11.3	32.1	54.4	0.9	0.1	1.1	
	スウェーデン	2010年 (510人)	-	6.5	91.0	1.2	-	1.4	
		2005年 (495人)	0.4	6.9	91.5	0.4	-	0.8	
	〔女性〕	日本	2010年 (709人)	7.5	63.3	28.2	0.1	-	0.8
			2005年 (614人)	10.3	60.3	28.5	0.3	-	0.7
韓国		2010年 (491人)	3.7	53.4	41.3	1.0	-	0.6	
		2005年 (493人)	4.3	58.1	37.2	0.4	-	-	
アメリカ		2010年 (509人)	0.4	30.6	66.2	1.4	-	1.4	
		2005年 (528人)	3.0	29.9	64.8	0.2	-	2.1	
フランス		2010年 (542人)	19.2	40.6	39.5	0.6	-	0.2	
		2005年 (503人)	16.7	30.2	52.2	0.2	-	0.7	
スウェーデン		2010年 (491人)	0.4	7.9	89.4	1.0	-	1.2	
		2005年 (524人)	-	6.3	93.3	0.2	-	0.2	

(2) 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行っていること (問 22)

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 22 [カード 19] 小学校入学前の育児について、あなたのご家庭の中で、夫が妻と同程度あるいは夫の方が主として行っている (行っていた) ことは何ですか。あてはまるものをいくつでも選んでください。(M.A.)

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 食事の世話をする         | 7 日常生活上のしつけ                 |
| 2 おむつを取り換える        | 8 保育所・幼稚園 (日中預けている場所) の送り迎え |
| 3 入浴させる            | 9 ベビーシッター等の手配・交渉            |
| 4 寝かしつける           | 10 その他 (具体的に)               |
| 5 家の中で、話しや遊び相手をする  | 11 何もしていない                  |
| 6 散歩など、屋外へ遊びに連れていく | 12 わからない                    |

子どものいる人、子育て経験のある人に、小学校入学前の育児について、家庭の中で、夫が妻と同程度あるいは夫の方が主として行っている (行っていた) ことは何か聞いたところ、日本では、男女ともに前回調査と同様、「入浴させる」が最も多い (男性：68.5%、女性：57.4%)。

各国の結果をみると、日本以外の国では、アメリカの男性を除くと、男女ともに前回同様「家の中で、話しや遊び相手をする」が最も高い。アメリカの男性では「日常生活上のしつけ」が72.7%で最も高い。

また、日本では男女ともに「食事の世話をする」が各国の中で最も低い。次に低い韓国においても3割を超えているが、日本の男性は17.8%、女性は9.0%に留まっている。(表 III-4)

表 III-4

(%)

男性	食事の世話を する	おむつを取り 換える	入浴させる	寝かしつける	家の中で、話し や遊び相手を する	散歩など、屋外 へ遊びに連れ ていく	日常生活上のし つけ	保育所・幼稚園 (日中預けて いる場所)の送 り迎え	ベビーシッター 等の手配・交	その他	何もしてい ない	わから ない
日本			1	4	3	2	5					
2010年(270人)	17.8	22.6	68.5	27.4	47.0	50.0	25.6	15.2	0.4	0.4	7.8	0.7
2005年(280人)	11.4	20.4	68.2	22.1	40.7	45.0	27.1	14.3	-	0.7	10.4	1.1
韓国	5	4	3		1	2						
2010年(260人)	37.7	38.8	53.5	33.5	60.4	56.9	33.8	12.3	2.3	0.4	4.6	0.4
2005年(265人)	5	4	3		1	2						
2005年(265人)	41.9	44.6	50.3	41.6	62.9	56.3	33.4	13.9	0.8	-	3.4	1.8
アメリカ	5			4	2	3	1					
2010年(282人)	56.7	52.8	47.9	67.7	72.3	68.8	72.7	46.8	32.3	2.8	3.5	1.1
2005年(271人)	5			3	1	4	2					
2005年(271人)	50.2	47.6	47.2	66.4	72.0	60.5	68.3	44.3	24.0	1.1	3.0	0.7
フランス	4			5	1	3	2					
2010年(260人)	73.1	65.4	65.8	68.8	80.0	75.0	77.7	54.2	22.3	-	0.8	0.4
2005年(260人)	2			3	1	4	5					
2005年(260人)	72.1	55.1	58.1	70.7	74.8	70.2	67.0	43.7	18.0	0.3	0.4	0.3
スウェーデン	5	2	4	3	1							
2010年(292人)	73.6	78.1	74.3	75.0	78.4	72.9	71.6	65.8	52.7	4.8	3.8	2.7
2005年(278人)	2			2	1	4	4					
2005年(278人)	75.2	83.5	77.3	83.5	85.6	78.8	78.8	73.4	46.0	-	3.6	0.4

(%)

女性	食事の世話を する	おむつを取り 換える	入浴させる	寝かしつける	家の中で、話し や遊び相手を する	散歩など、屋外 へ遊びに連れ ていく	日常生活上のし つけ	保育所・幼稚園 (日中預けて いる場所)の送 り迎え	ベビーシッター 等の手配・交	その他	何もしてい ない	わから ない
日本			1		3	2	4				5	
2010年(477人)	9.0	15.7	57.4	15.3	41.9	43.2	21.0	10.5	0.4	0.2	16.1	0.8
2005年(441人)	1				3	2	5				4	
2005年(441人)	7.7	13.4	59.4	15.2	39.0	44.0	16.8	7.0	-	0.5	19.7	0.2
韓国	5	4	3		1	2						
2010年(334人)	31.7	36.5	44.3	31.1	59.9	55.4	27.8	14.1	0.3	0.3	6.9	1.5
2005年(341人)	5	4	3		1	2						
2005年(341人)	40.0	48.0	49.9	38.8	60.2	53.3	31.5	12.3	1.4	-	8.5	0.9
アメリカ	5			3	1	4	2					
2010年(326人)	42.3	39.3	41.4	58.3	60.7	56.1	58.6	37.1	23.3	2.8	13.8	3.1
2005年(362人)	5			4	1	3	2					
2005年(362人)	43.4	41.7	37.6	54.1	64.1	54.4	60.5	36.5	21.3	1.9	9.1	1.4
フランス	4			5	1	2	3					
2010年(405人)	56.3	49.6	46.7	52.6	70.6	63.2	61.2	38.8	16.5	-	7.4	0.7
2005年(341人)	5			3	1	4	2					
2005年(341人)	52.6	40.9	42.1	54.6	67.7	53.4	57.1	33.0	8.2	2.5	10.0	0.8
スウェーデン	3	4	2	5	1							
2010年(343人)	64.7	64.4	65.3	63.3	67.1	63.0	58.6	59.8	37.6	5.0	8.7	2.0
2005年(343人)	5	4	3	2	1	5						
2005年(343人)	68.8	69.1	70.6	72.3	76.1	68.8	59.8	59.8	39.4	1.2	5.2	0.3

注：上段の網掛け数字は各国の上位5項目の順番

(3) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について (問 23)

【全員に】

問 23 [カード 20] 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |              |         |
|--------------|---------|
| 1 賛成         | 4 反対    |
| 2 どちらかといえば賛成 | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば反対 |         |

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、日本では、「賛成」が男性で13.2%、女性で8.6%である。また、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は男女ともに5割を超え前回調査よりも上昇しており、5カ国の中で最も高い。

各国比較でみると、日本以外では、アメリカ、フランス、スウェーデンでは男女とも前回同様「反対」が多く、特にスウェーデンでは7割を超えている。また、韓国の女性では、前回調査では「どちらかといえば賛成」が28.8%と最も高かったのに対し、今回は「どちらかといえば反対」が28.5%で最も高くなっている。(表 III-5)

表 III-5

(%)

		賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	
〔男性〕	日本	2010年 (539人)	13.2	51.8	22.4	8.2	4.5
		2005年 (501人)	11.8	47.5	24.4	10.2	6.2
	韓国	2010年 (514人)	18.9	30.4	24.9	18.9	7.0
		2005年 (511人)	20.3	32.3	22.4	22.6	2.4
	アメリカ	2010年 (491人)	13.0	26.1	21.0	35.8	4.1
		2005年 (472人)	16.3	27.3	22.5	31.8	2.1
	フランス	2010年 (460人)	8.0	11.3	33.5	44.6	2.6
		2005年 (503人)	6.7	21.5	33.3	35.6	3.0
スウェーデン	2010年 (510人)	2.0	8.0	14.1	74.5	1.4	
	2005年 (495人)	0.4	8.5	20.8	69.5	0.8	
〔女性〕	日本	2010年 (709人)	8.6	48.2	29.1	11.1	3.0
		2005年 (614人)	10.6	44.8	29.0	11.2	4.4
	韓国	2010年 (491人)	14.1	26.9	28.5	24.8	5.7
		2005年 (493人)	15.6	28.8	24.8	28.5	2.3
	アメリカ	2010年 (509人)	12.8	24.0	20.8	40.7	1.8
		2005年 (528人)	13.8	28.8	16.5	38.4	2.5
	フランス	2010年 (542人)	5.2	13.3	31.7	48.7	1.1
		2005年 (503人)	7.2	16.2	32.3	41.7	2.6
	スウェーデン	2010年 (491人)	2.6	9.6	13.2	72.9	1.6
		2005年 (524人)	1.3	7.1	14.1	76.9	0.6



### 3. 子育てに関する経済的な負担

#### (1) 子どもの成長に対する経済的援助はどこまでするか (問 24)

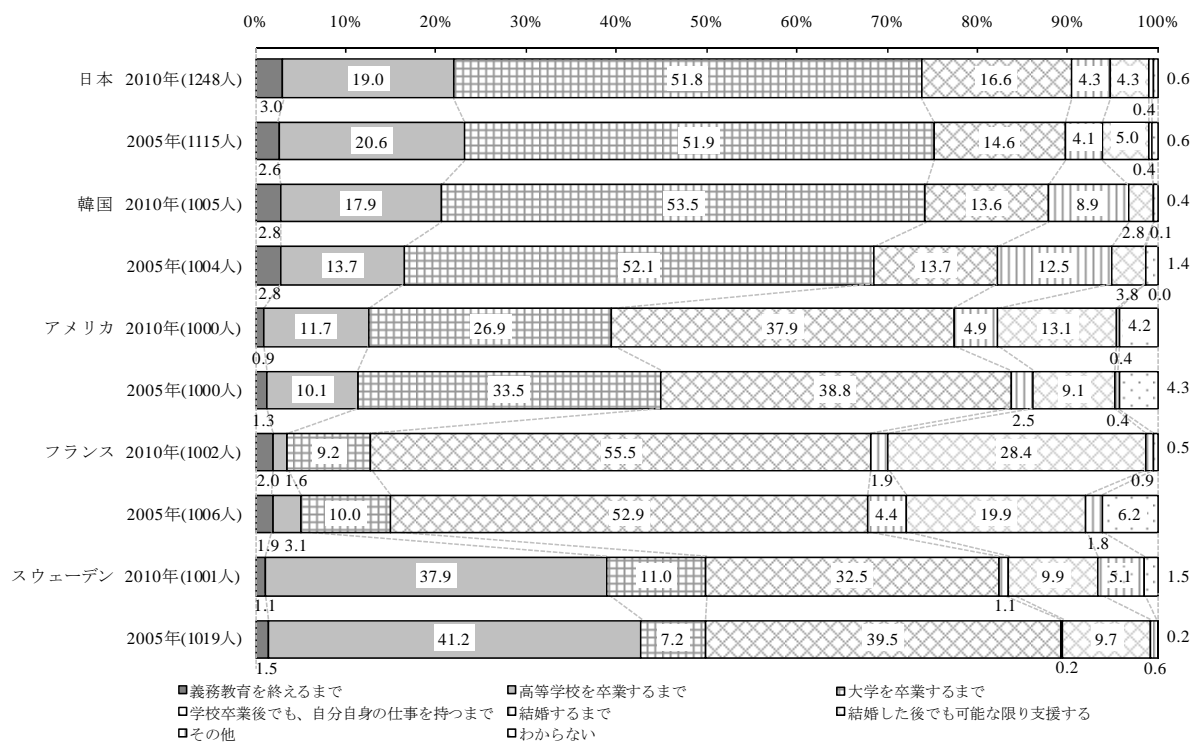
問 24 [カード 21] あなたは、子どもの成長に対して、経済的にどこまで面倒をみるべきだと考えていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1 義務教育を終えるまで           | 5 結婚するまで          |
| 2 高等学校を卒業するまで          | 6 結婚した後も可能な限り支援する |
| 3 大学を卒業するまで            | 7 その他(具体的に)       |
| 4 学校卒業後でも、自分自身の仕事を持つまで | 9 わからない           |

子どもの成長に対して、経済的にどこまで面倒をみるべきだと考えているか聞いたところ、日本では前回調査と同様、「大学を卒業するまで」が 51.8%で最も高かった。次に高いのは「高等学校を卒業するまで」で 19.0%となっている。

各国比較では、アメリカは「大学を卒業するまで」が減少しているが、韓国、スウェーデンでは上昇している。また、フランスでは「学校卒業後でも、自分自身の仕事をもつまで」が 55.5%、スウェーデンでは、「高等学校を卒業するまで」が 37.9%で最も高く、これは前回調査と同様の傾向であると言える。(図 III-2)

図 III-2



(2) 子どもに関する1年間の支出(問25) \* 新規の設問

【問25～問29は、子どものいる方、子育て経験のある方に】

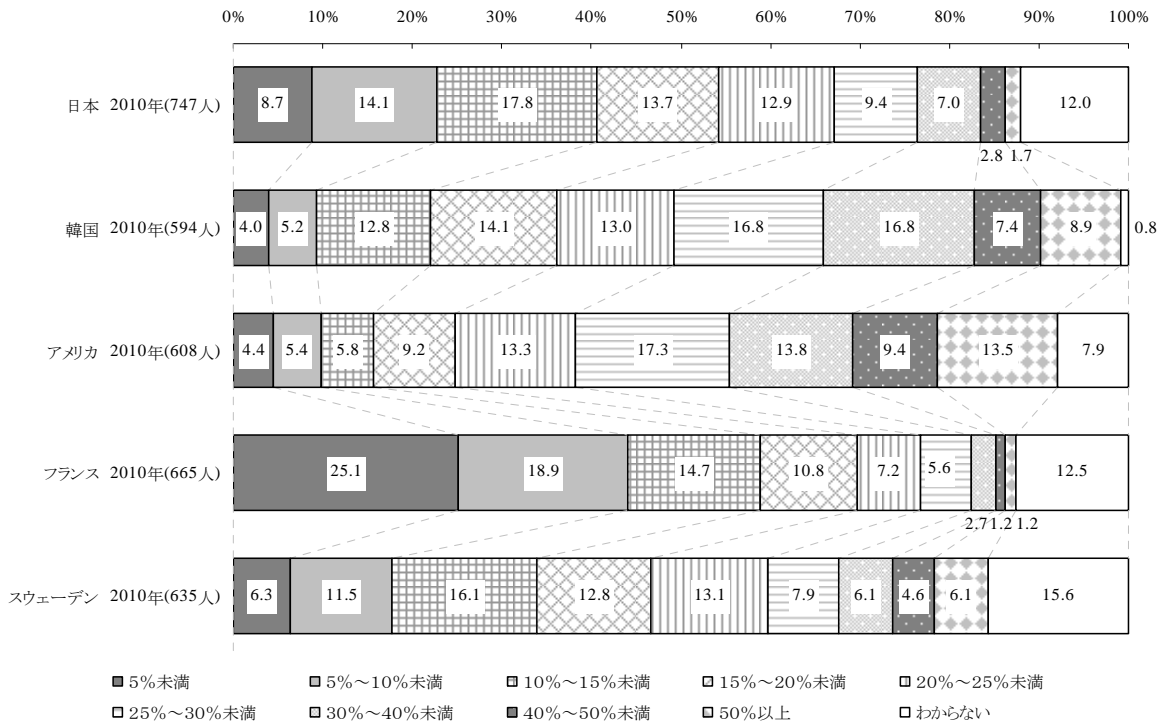
問25〔カード22〕あなたの子どもに関する昨年1年間の支出は、あなたの世帯の家計のうちどのくらいを占めますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。保育費または学校・塾・習い事などの教育費についてお答えください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 5%未満      | 6 25%～30%未満 |
| 2 5%～10%未満  | 7 30%～40%未満 |
| 3 10%～15%未満 | 8 40%～50%未満 |
| 4 15%～20%未満 | 9 50%以上     |
| 5 20%～25%未満 | 10 わからない    |

子どものいる人、子育て経験のある人に、子どもに関する昨年1年間の支出は、世帯の家計のうちどのくらいを占めるかを聞いたところ、日本では、「10%～15%未満」が最も多く17.8%。次いで「5%～10%未満」の14.1%、「15%～20%未満」の13.7%と続く。

各国比較では、韓国は「25%～30%未満」及び「30%～40%未満」が最も高く16.8%となっている。アメリカでは「25%～30%未満」が17.3%で最も高く、また他国との比較では「50%以上」とする回答の割合が13.5%と高い。フランスは「5%未満」が25.1%で、5カ国の中でも最も高い。スウェーデンにおいて最も高かったのは「10%～15%未満」であった。(16.1%) (図 III-3)

図 III-3



(3) 子どもに関する支出の負担（問 26）＊新規の設問

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

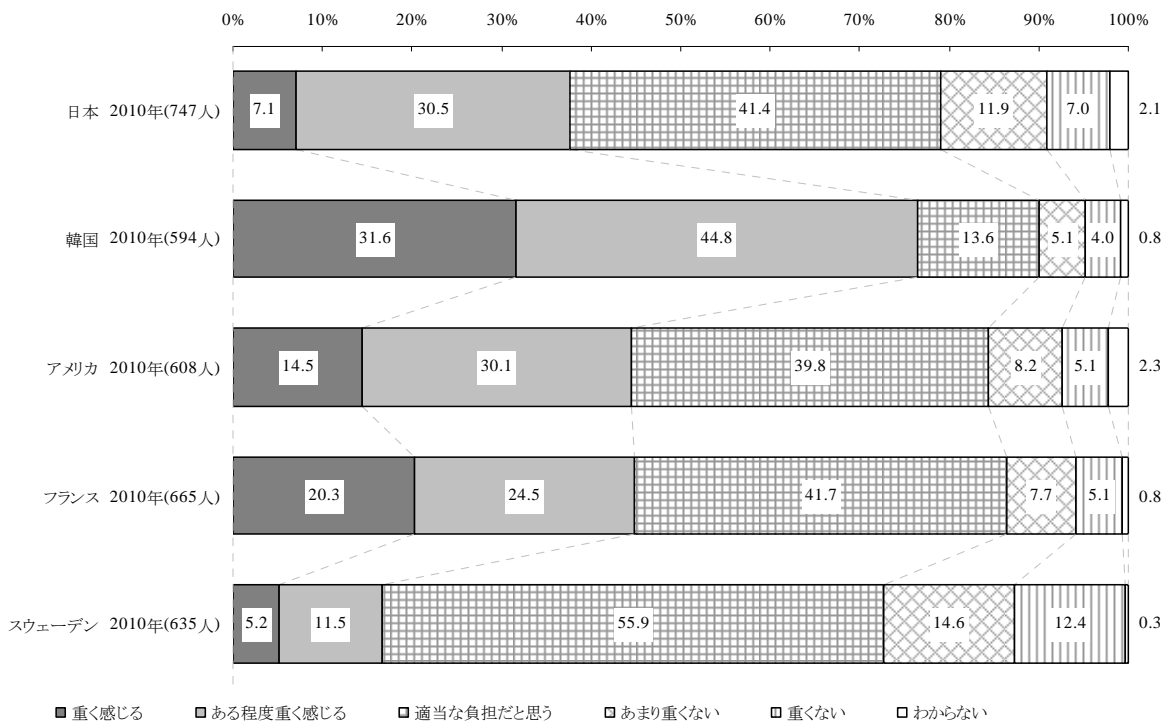
問 26〔カード 23〕あなたの子どもに関する支出は、あなたの世帯の家計にとって、どのように感じられますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 重く感じる     | 4 あまり重くない |
| 2 ある程度重く感じる | 5 重くない    |
| 3 適当な負担だと思う | 6 わからない   |

子どものいる人、子育て経験のある人に、子どもに関する支出は、世帯の家計にとって、どのように感じられるのか聞いたところ、日本では、「重く感じる」が7.1%であり、「重く感じる」と「ある程度重く感じる」の合計は37.6%だった。一方で、「適当な負担だと思う」は41.4%を占める。

各国比較でみると、「重く感じる」と「ある程度重く感じる」を足した割合は韓国が最も高く(76.4%)、フランス(44.8%)、アメリカ(44.6%)、日本(37.6%)、スウェーデン(16.7%)の順になっている。韓国では「ある程度重く感じる」が44.8%で最も高い回答であったが、その他の国では「適当な負担だと思う」が最も高かった(日本:41.4%、アメリカ:39.8%、フランス:41.7%、スウェーデン:55.9%)。スウェーデンは「重く感じる」が5.2%と各国で最も低い。(図 III-4)

図 III-4



(4) 子育てにかかる経済的な負担で大きなもの (問 27) \* 新規の設問

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 27 [カード 24] あなたにとって、子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何ですか。負担が大きいと思うものをいくつでも選んでください。(M.A.)

- |                                   |                   |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1 保育にかかる費用 (保育所・幼稚園、保育ママや学童保育を含む) | 7 衣服費             |
| 2 学校教育費                           | 8 住宅費             |
| 3 学習塾など学校以外の教育費                   | 9 医療費             |
| 4 学習塾以外の習い事の費用                    | 10 レジャー、レクリエーション費 |
| 5 通信費 (携帯電話の費用など)                 | 11 その他 (具体的に)     |
| 6 食費                              | 12 特にない           |
|                                   | 13 わからない          |

子どものいる人、子育て経験のある人に、子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何か聞いたところ、日本では、「学習塾など学校以外の教育費」が 36.5%で最も多かった。次いで「保育にかかる費用 (保育所・幼稚園、保育ママや学童保育を含む)」が 32.1%、「学校教育費」が 22.8%と続く。

各国比較をみると、韓国の「学習塾など学校以外の教育費」が 71.7%で際立って高い。また、アメリカ、フランス、スウェーデンでは「衣服費」(順に、52.8%、60.0%、47.1%) が最も高くなっている。(表 III-6)

表 III-6

(%)

	保育にかかる費用	学校教育費	学習塾など学校以外の教育費	学習塾以外の習い事の費用	通信費 (携帯電話の費用など)	食費	衣服費	住宅費	医療費	レジャー、レクリエーション費	その他	特にない	わからない
日本 2010年(747人)	2 32.1	3 22.8	1 36.5	5 19.9	8.8	18.5	4 20.5	7.0	12.7	12.3	0.1	9.8	1.2
韓国 2010年(594人)	2 29.8	3 28.3	1 71.7	4 22.2	16.3	16.3	5 21.7	3.2	9.6	5.7	0.2	2.4	0.3
アメリカ 2010年(608人)	3 46.5	3 38.8	1 12.2	4 18.9	18.9	4 44.6	1 52.8	33.7	2 47.2	5 39.1	1.5	7.2	1.3
フランス 2010年(665人)	4 26.8	5 22.3	1 4.5	1 11.1	11.9	2 46.6	1 60.0	12.3	20.3	3 37.6	0.8	5.6	0.2
スウェーデン 2010年(635人)	5 23.9	1 9.0	1 7.2	2 32.8	21.1	3 29.4	1 47.1	12.8	4.7	4 26.1	4.7	20.3	0.6

注：上段の網掛け数字は各国の上位 5 項目の順番

#### 4. 子どもの育て方

##### (1) 突然の用事の際に、子どもの面倒を誰に頼むか（問 28）\* 新規の設問

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 28〔カード 25〕突然の用事のために、子どもの面倒をみることができないとき、誰に最初に援助を頼みますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1 配偶者（同棲相手を含む。以下同じ）    | 8 ボランティアなどの地域の保育サービス       |
| 2 自分の親または配偶者の親         | 9 学校(*)                    |
| 3 自分のきょうだいまたは配偶者のきょうだい | 10 自治体の子育て支援センターなどの行政機関(*) |
| 4 子育て仲間(*)             | 11 保育ママ・ベビーシッター(*)         |
| 5 近所の人                 | 12 勤め先にある保育施設(*)           |
| 6 友人                   | 13 その他（具体的に）               |
| 7 保育所の一時的保育サービス        | 14 わからない                   |

注：(\*)を付した選択肢は前回調査から新規に追加したものである。

子どものいる人、子育て経験のある人に、突然の用事のために、子どもの面倒をみることができないとき、誰に最初に援助を頼むかを聞いたところ、日本では、男女ともに「自分の親または配偶者の親」が最も高かった（男性：56.7%、女性：55.3%）。

各国比較では、日本を除く全ての国で男女ともに「配偶者（同棲相手を含む。以下同じ）」が最も高く、次いで「自分の親または配偶者の親」の順となっている。（表 III-7）

表 III-7

(%)

		配偶者 （同棲相手を含む）	自分の親 または配偶者の親	自分のきょうだい または配偶者のきょうだい	子育て仲間（*）	近所の人	友人	保育所の一時的 保育サービス	ボランティアなどの 地域の保育サービス	学校（*）	自治体の子育て支援 センターなどの行政 機関（*）	保育ママ・ベビー シッター（*）	勤め先にある 保育施設（*）	その他	わからない
[男性] 日本	2010年 (270人)	35.9	56.7	1.9	0.4	1.1	0.7	1.1	-	-	0.4	-	-	0.4	1.5
韓国	2010年 (260人)	55.0	33.5	7.3	0.8	1.9	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-
アメリカ	2010年 (282人)	68.8	22.7	3.2	1.1	-	1.1	0.4	-	-	-	-	-	1.1	1.8
フランス	2010年 (260人)	54.6	28.8	3.8	0.4	2.7	5.0	0.8	-	-	-	1.2	-	1.9	0.8
スウェーデン	2010年 (292人)	74.3	16.4	4.8	0.7	0.7	0.7	-	-	-	0.3	-	-	2.1	-
[女性] 日本	2010年 (477人)	32.9	55.3	3.6	2.1	1.5	1.7	1.5	-	-	0.2	-	-	0.4	0.8
韓国	2010年 (334人)	48.8	32.6	6.9	1.2	7.5	0.9	0.6	-	-	-	0.6	-	0.6	0.3
アメリカ	2010年 (326人)	55.8	27.3	9.5	1.2	-	3.1	-	-	-	-	0.3	-	2.1	0.6
フランス	2010年 (405人)	44.7	31.4	6.4	1.7	2.0	7.4	0.7	-	-	-	1.7	-	1.5	2.5
スウェーデン	2010年 (343人)	68.2	15.7	11.1	-	-	2.9	0.3	-	-	-	-	-	1.5	0.3

注：(\*)を付した選択肢は前回調査から新規に追加したものである。

(2) 育児に関する悩みがあるときに誰に相談するか (問 29) \* 新規の設問

【子どものいる方、子育て経験のある方に】

問 29 [カード 26] 育児に関する悩みがあるときに、誰に相談をしますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。(M.A.)

- |                        |                                 |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 配偶者 (同棲相手を含む。以下同じ)   | 1 1 自治体の子育て支援センターなどの行政機関        |
| 2 自分の親または配偶者の親         | 1 2 保育ママ・ベビーシッター                |
| 3 自分のきょうだいまたは配偶者のきょうだい | 1 3 勤め先にある保育施設                  |
| 4 子育て仲間                | 1 4 育児や発達に関する専門機関               |
| 5 近所の人                 | 1 5 育児に関する雑誌や書籍                 |
| 6 友人                   | 1 6 インターネットの掲示板、ブログ、SNS、ツイッターなど |
| 7 同僚                   | 1 7 その他 (具体的に)                  |
| 8 保育所の一時的保育サービス        | 1 8 そのような人 (機関) はない             |
| 9 ボランティアなどの地域の保育サービス   | 1 9 わからない                       |
| 1 0 学校                 |                                 |

子どものいる人、子育て経験のある人に、育児に関する悩みがあるときに、誰に相談をするかを聞いたところ、日本では「配偶者 (同棲相手を含む。以下同じ)」が 64.5% で最も多く、「自分の親または配偶者の親」が 56.8%、「友人」が 42.4% の順。

各国の結果をみると、日本同様全ての国で「配偶者 (同棲相手を含む。以下同じ)」が最も高かった (韓国 : 73.1%、アメリカ : 69.7%、フランス : 46.5%、スウェーデン : 66.0%)。(表 III-8)

表 III-8

	配偶者 (同棲相手を含む)	自分の親または配偶者の親	自分のきょうだいまたは配偶者のきょうだい	子育て仲間	近所の人	友人	同僚	保育所の一時的保育サービス	ボランティアなどの地域の保育サービス	学校	自治体の子育て支援センターなどの行政機関	保育ママ・ベビーシッター	勤め先にある保育施設	育児や発達に関する専門機関	育児に関する雑誌や書籍	インターネットの掲示板、ブログ、SNS、ツイッター等	その他	そのような人 (機関) はない	わからない
日本 2010年(747人)	1 64.5	2 56.8	5 23.3	4 30.3	5.5	3 42.4	12.7	2.1	0.5	4.1	2.5	0.4	0.4	1.6	4.7	5.9	0.9	0.5	0.5
韓国 2010年(594人)	1 73.1	3 31.6	4 24.9	9.8	5 13.3	2 34.8	6.9	1.2	0.7	2.2	0.2	0.3	0.3	1.5	3.2	4.5	0.7	0.7	0.2
アメリカ 2010年(608人)	1 69.7	2 66.9	4 33.2	5 32.1	9.9	3 49.5	13.0	1.5	1.0	6.6	3.1	2.8	0.7	8.7	15.1	8.1	3.5	1.3	1.2
フランス 2010年(665人)	1 46.5	2 44.7	4 18.3	5 7.8	3.2	3 29.5	6.3	1.5	0.2	3.8	2.1	2.4	0.2	3.0	4.5	5.6	3.9	6.3	0.5
スウェーデン 2010年(635人)	1 66.0	2 47.4	4 29.9	5 22.2	6.3	3 36.7	17.5	4.9	2.2	12.9	10.7	4.3	2.5	12.6	18.7	12.6	4.4	0.8	0.8

注：上段の網掛け数字は各国の上位 5 項目の順番

(3) 子どもを生き育てやすい国かどうか (問 30)

【全員に】

問 30 [カード 27] 自国は、子どもを生き育てやすい国だと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 とてもそう思う        | 4 全くそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う   | 5 わからない    |
| 3 どちらかといえばそう思わない |            |

自国は、子どもを生き育てやすい国かどうか聞いたところ、日本では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は4.9ポイント上昇し、52.6%となった。「とてもそう思う」は8.6%で、前回調査の9.0%から0.4ポイント減少しているものの、「どちらかといえばそう思う」の44.0%は前回調査の38.7%から5.3ポイント上昇している。

各国比較をみると、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計はスウェーデンが前回同様、最も高く、97.1%に上り、次にアメリカ(75.5%)、フランス(72.0%)、日本(52.6%)と続く。韓国はこの割合が最も低く16.2%にとどまり、代わりに「どちらかといえばそう思わない」と「全くそう思わない」の合計が他の国と比べて最も高く81.3%に上る。(図 III-5)

図 III-5

